

研究課題	教師のゲシュタルトの再形成をめざした研修手法の開発 —同型性の原理に着目して—		
氏名	渡辺貴裕	所属 教職大学院（教育実践創成 講座）	職名 准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
<p><b>【研究成果の概要】</b> （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）</p> <p>教師は授業中に合理的な意思決定プロセスに従って行動しているのではなく、F. コルトハーヘンが「ゲシュタルト」と呼んだような、状況に対する直感的で半自動的な反応図式に沿って行動している。そのため、教師を論理的に説得しようとするような従前の研修モデルでは、実効性の点において限界がある。</p> <p>それではどうすれば研修を通しての教師のゲシュタルトの再形成は可能になるのか。本研究では、教室での実施を教師に求めるような学び方を、研修の場そのものにおいて教師教育者がリードし教師らと共に実現するという「同型性」の原理に着目した。</p> <p>研究のフィールドとして、京都府八幡市立美濃山小学校の協力を得、同校の研究主任と連携して、「同型性」の原理に基づいた校内研修を推し進めた。同校では、授業における演劇的手法の活用に全校で取り組んできている。そこでは、状況の中に入って内側から物事を捉えること、即興的に動いてみることで、自分の感覚を働かせることなどの要素を大事にしている。そのため、校内研修においても、それらの要素が機能するよう、内容および進行を組み立てた。具体的には、子どもの学習活動を教師ら自身が体験してそれをもとに話し合うといったスタイルを取り入れた。</p> <p>それにより、研修における教師らの語りのモードに変容が見られた。また、演劇的手法になじみがなかった教師に関しても、日常的な授業実践において演劇的手法を活用するようになるといった変化が生じている。</p> <p>さらに、大阪市内のある公立小学校とも連携して、同様のスタイルを校内研究に取り入れ、研修の改革に取り組んだ。美濃山小で生み出された研修スタイルが異なる文脈でどのように機能するか、検討を行った。</p> <p>学校の実践研究の成果の発信方法もまた、見直しの対象となる。公開研究会の全体会や研究紀要などにおいて、研究主任あるいはその学校の教師らが一方的に他校の教師に向けて説明するやり方では、意味のある変化は見込めない。そのため、公開研究会に関しても「同型性」の原理を貫徹させる試みを、美濃山小において行った。2020年1月に催された自主公開研にそれが反映されている。</p>			
<p><b>【研究成果発表方法】</b></p> <p>美濃山小学校との共同研究の成果をまとめた書籍（『なってみることで変わる学び —演劇的手法と美濃山小の実践—（仮）』）を2020年夏頃に刊行の予定である。</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。